

セダム緑化

セダムのことをご存じですか？

セダムの四季

屋上は高温や低温、さらに乾燥や強風等に曝され、植物にとって厳しい生育環境になっています。この屋上へ薄層で緑化するにはセダムに代表される乾燥に強い多肉植物が適しています。しかし**ノーメンテナンス(何も人の手を加えない状態)で放置された場合、過酷な条件に強いセダムといえども健全な生育は不可能になります。**一方、適切なメンテナンス状態でセダムを用いれば低管理で良好な屋上緑化を維持していくことが可能です。

セダムの変化

薄層緑化では土壌が薄いため、降雨による土壌養分の流亡が発生しやすい傾向があります。セダムは一般の植物に比べ、少ない肥料分で緑化を維持することが可能ですが、肥料が切れると「生長の阻害」や「衰退の進行」が発生します。健全な緑化を維持するために適切に肥料を与えて下さい。



薄層緑化協会推奨 標準メンテナンス

健全な植生を維持させるためには、年間3回程度の定期的なメンテナンスが必要です。**確実なメンテナンスを実施するために専門業者とのメンテナンス契約をお勧めします。**
 ◆メンテナンスについては協会員各社へご相談下さい。
 ◆メンテナンスに水を使用するので、屋上に必ず散水栓を設置してください。

時期	点検(建物の管理者が実施)		維持管理作業(メンテナンス契約を推奨)				
	植栽域の点検 春・夏・秋	植栽周辺部の点検 春・夏・秋	灌水 乾燥期	除草 春・夏・秋	施肥 春・秋	病害虫防除 春・秋	
内容	・植物の生育状況 ・雑草の有無 ・病害虫発生の有無 ・土壌の飛散流出	・緑化システムの不具合 ・植栽域内の排水溝 ・その他異常の有無	・排水ドレン ・排水路(溝) ・防水層の損傷	長期間(10日から2週間)降雨がない場合に灌水を推奨	雑草が種を落とす前に除去することが望ましい	遅効性肥料等の散布 施肥直後の散水を推奨	捕殺・薬剤散布による防除
春	3月						
	4月	●	●		●		
	5月						
夏	6月	●	●		●		
	7月			猛暑時の日中の灌水は厳禁			必要に応じて
	8月						
秋	9月	●	●		●		
	10月						必要に応じて
	11月						
冬	12月						
	1月						
	2月						
備考	強風、豪雨、台風の前には点検を実施してください。		環境条件により灌水量や灌水間隔等が異なります。	花からは大量に残っていると病害が発生しやすくなるので、除去をお勧めします。	肥料の種類、用法等により年に1回でも可	薬剤の種類、用法等については協会員各社にご相談ください。	

注1) 上記の実施時期は、関東～関西の一般地を標準に設定したものですので、それ以外の地域の実施時期は多少変動いたします。さらに植栽地の環境条件によっては状況に応じた付加的なメンテナンスが必要となります。詳細は協会員各社にご相談ください。

注2) 当標準メンテナンスは現在の知見および経験をもとに作成されていますので、今後の実績や技術革新等により変更されることがあります。

セダム緑化

標準メンテナンス

維持管理注意事項

セダムを用いた薄層屋上緑化のメンテナンス詳細は次の通りです。なお、日常の点検は建物の管理者が実施して下さい。維持管理作業は専門業者とのメンテナンス契約をお勧めします。

維持管理項目	維持管理注意事項
点検	植栽域の点検 <ul style="list-style-type: none"> 植物の生育状況を観察し、必要に応じて、除草、施肥、補植、病害虫防除を実施してください。 土壌の飛散、流失が見られる場合は、土壌の補充を行い、必要に応じて飛散・流失防止策を講じてください。 台風到来が予測される場合は、事前に緑化システム等の固定状況を確認し、不具合箇所は修復してください。さらに、台風や豪雨のあとの点検も実施してください。 植栽域内の排水ドレン、排水路(溝)を点検、清掃してください。
	植栽域周辺部の点検 <ul style="list-style-type: none"> 排水ドレン付近および排水路(溝)に落葉、泥、土壌、ごみ等がないか点検し、清掃してください。台風・豪雨前後の点検をお勧めします。 防水層が露出されている場合は、表面の損傷がないか確認し、損傷が見られた場合は速やかに補修もしくは専門業者に相談してください。
維持管理作業	灌水 <ul style="list-style-type: none"> セダムは本来乾燥に強い植物ですので、通常は自然降雨以外の灌水は必ずしも必要としません。ただし、10日 から2週間程度降雨がない場合は灌水をお勧めします。 手動や自動灌水装置による定期的な灌水も適量であれば植物の生育には好ましいことです。しかし、過剰な灌水は雑草の繁茂、過湿、蒸れによる植物の衰退・枯死をもたらしますので、灌水条件の設定(灌水量や灌水間隔等)には十分注意してください。特にタイマーによる自動灌水の場合は、季節ごとの設定変更が必要です。 灌水にあたっては、夕方涼しくなってからの時間帯あるいは早朝、全面にまんべんなく行うことが大切です。過度に灌水したり、日中の暑い時間帯に行くと、蒸れの原因となりセダムの生育上好ましくありません。 灌水条件は緑化システム、地域、環境条件によって変動しますので、対象物件の施工業者もしくは緑化システム供給業者にご相談ください。
	除草 <ul style="list-style-type: none"> 薄層であることから、一般の緑化よりは雑草が生育しにくい環境にありますが、雑草が繁茂するとセダムが被圧されて著しい生育不良にいたりしますので、雑草が繁茂する前に除草してください。 雑草が結実してしまうと、種子を落としてしまい、除草後も雑草が発生しやすくなりますので、できるだけ結実前に除草することをお勧めします。 定期的な灌水を実施している場合は、雑草も発生しやすく、成長も早くなりますので、こまめに除草することをお勧めします。 施肥を行うと、雑草の生育も助長しますので、施肥前に除草を行うとともに施肥後も比較的短期間で除草することをお勧めします。 除草剤など薬剤による除草はできませんのでご注意ください。(各社で指定もしくは推奨除草剤がある場合は除きます)
	施肥 <ul style="list-style-type: none"> 本来セダム類は一般の植物に比較して肥料をあまり必要としませんが、セダム類の安定的な生育及び維持には年に1～2回程度の施肥が必要です。 肥料効果を効果的に作用させるため、施肥直後の散水をお勧めします。 肥料の種類・用法によっては、セダムの生育に悪影響を与えかねませんので、対象物件の施工業者もしくは緑化システム供給業者にご相談ください。
	病害虫防除 <ul style="list-style-type: none"> 植物の生育環境の点では屋上は苛酷な環境にありますので、一般的な緑化と比較すれば、病害虫は発生しにくいと言えますが、気候条件等により、まれに発生することがあります。その場合は速やかに防除措置を講じてください。 薬剤の種類・用法によっては、セダムの生育に悪影響を与えかねませんので、対象物件の施工業者もしくは緑化システム供給業者にご相談ください。 大量に花がらが残っていると、病害が発生しやすくなりますので、除去することをお勧めします。 【病害例】白絹病・うどん粉病・疫病・黒腐病・立ち枯れ病等 【虫害例】ヨトウムシ・アブラムシ・ドウガネブイブイ・ナメクジ・ネジラミ等



ヨトウムシ



アブラムシ



カタツムリ



カイガラムシ

メンテナンスの状態	セダムの状態
しない(ノーメンテナンス)	やがて衰退(場合によっては消滅)
低管理(標準メンテナンス)	年間3回程度の低水準管理で緑化を維持しようとするもの。セダムは四季により変化しながら、徐々に環境へ順化していく。セダムを用いた薄層屋上緑化工法の基本となるメンテナンス方法。 *特定の種類のセダムが繁茂または衰退したり、セダムの大きさや密度が変化すること。セダム以外の植物種が定着することもある。
高管理	芝生と同様に、灌水、除草、刈り込み、施肥等を計画的に行う高水準の管理方法。年間を通じセダムを一定の状態に保つことが要求される場合に実施するメンテナンス方法。